

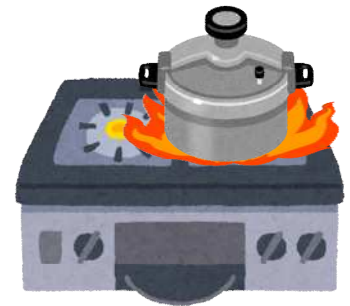
着衣着火に注意！

みなさんは、調理中コンロや仏壇のろうそくに接触し洋服の袖を焦がし
ヒヤッとしたことはありませんか？

私たちが普段着ている衣服に着火することを「**着衣着火**」と言います。
児玉郡市管内でも、今年に入り着衣着火による火災が2件発生しています。
一人ひとりが着衣着火について理解し、未然に火災を防ぎましょう。

着衣着火の事例

- ・ガスコンロで調理中、調味料を取ろうとして袖口に着火した。
- ・仏壇を清掃中、ろうそくの灯火に袖口が着火した。
- ・たばこの火種が落ち、衣服に着火した。
- ・幼児が手持ち花火をしていて、衣服に着火した。 など



着衣着火の傾向と対策

(傾向)

- ・死者数の**約9割が65歳以上の高齢者**
- ・**寒い季節に多い**（長袖やストール、綿、レーヨン生地など燃えやすい服を着ているため）

フラッシュ現象：生地表面から火がつき、一瞬にして服全体に火がまわること。

生地の表面が起毛している場合は、空気を含んで燃えやすくなっている
ので十分に注意が必要です。

(対策)

- ・コンロの周りを**整理整頓**。
※コンロの奥に調味料など手に取る物を置くのはやめましょう。
- ・火を使うときは、ストールやマフラーを外し、**袖口が広い服は着ない**。
- ・コンロを離れるときは**必ず火を消す**。
- ・**火力を調整**し、鍋などの底から火をはみ出さない。
- ・**防災品**のエプロンやアームカバーをつけ、調理する。

★防災品など詳しい情報は [日本防災協会ホームページ](#) をご覧ください

↑↑ **クリック**

着衣着火時の対処法

服に付いた火を手で消すことは困難です。

近くにいる人に**助けを求め**、すぐに**119番通報**してください！

- ① 素早く服を脱げる場合は**衣服を脱ぐ**！
- ② **火を消す**！ (水道水や浴槽の水が近くにある場合はかける)

服が脱げない！水が近くにない！など即座対応にできない場合は、慌てて走らずに次の動きをしましょう。⚠慌てて走ると、かえって火の勢いが増します

1

ストップ

止まって、
両手で顔を覆う



2

ドロップ

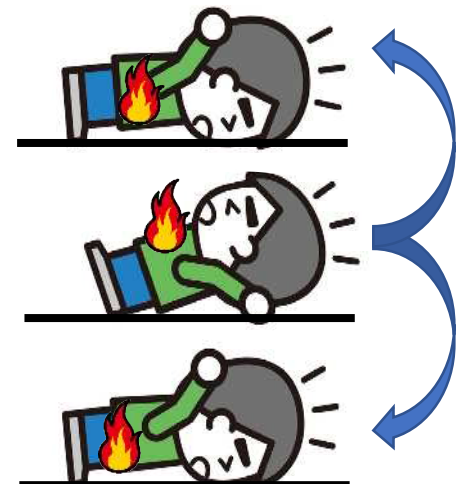
地面に寝転ぶ



3

ロール

横向きに
ゴロゴロ転がる



💡 これはアメリカの消防士が考えた着衣着火した際の消火方法で子供向けの防災教育にも採用されています